

【旭市の被害】(1月31日現在)

人的被害	死者13人、行方不明者2人
住宅被害	全壊336世帯、大規模半壊432世帯、半壊509世帯、一部損壊2,414世帯 合計3,691世帯(うち液状化被害768世帯)
津波による浸水面積	3.8 km ² (資料：県防災危機管理課)
液状化による土地被害	8.74 km ² (住宅地域4.74 km ² 、農地4.0 km ²)
崖崩れ	萬歳・長部・清和甲地区
ライフライン	水道：3月14日全地域送水開始、一部断水 4月19日完全復旧 電気：3月12日ほぼ復旧。14日計画停電実施、以降被災地のため除外



午後5時13分ごろ、飯岡漁港を襲う津波。さらに飯岡の街へと津波が向かう

しかし、この震災は、それだけでは終わらなかった――。



液状化による地盤沈下



昭和46年の台風25号により崩れた崖が再び崩落

復興へ、私たちは今……

震災から1年。今もまだ街のあちろこちろに残るその爪痕。

1月30日、旭市復興計画が策定され、いよいよ本格的に復興へと歩み始めた旭市——。
今、私たち一人一人が、もう一度この震災と向き合い、それぞれが考え、そして後世へと伝えていくことが必要ではないだろうか。



「東北地方太平洋沖地震」概要(気象庁)

発生日時	平成23年3月11日(金) 午後2時46分
震源地	三陸沖(北緯38度6.2分、東経142度51.6分)
震源の深さ	約24km
地震の規模	マグニチュード9.0(国内観測史上最大)
地震の種類	海溝型地震、逆断層型
本市の最大震度	5強



あの日……

経験したことのないような大きな揺れ

平成23年3月11日、午後2時46分、東北地方から関東にかけての東日本一帯を、突然、今まで経験したことのない大地震が襲った。
三陸沖を震源とするこの地震は、国内観測史上最大となるマグニチュード9.0を記録。最大震度は、宮城県栗原市で震度7を観測した。
震源から約330km離れた本市でも、2度にわたり震度5強の揺れに見舞われ、その後もしばらく強い余震が続いた。この地震により市内の至る所で屋根瓦が落ち、建物は傾き、道路も大きくゆがみ、裂けた地面からは水と一緒に砂が噴き出ている場所も見られた。
電話回線の不通、停電、断水など、一時市内の生活機能は完全に麻痺してしまった。